



## テクノロジーと法の未来へ

vol.04

### 私にとってのデザイン

「デザイン」と一口に言っても、その言葉に含まれる意味はたくさんあります。私にとってのデザインは、大学に入ってからとそれ以前ではかなり意味が変わりました。私は、小さいころから絵を描くことが大好きでした。幼少期に私の描いた絵を見た両親や先生が驚いたような、うれしそうなの、そんな表情を見るのが子どもながらに好きだったからです。絵を描くことで、自分のなかにある何かのほかの人とは違う形で表現できるような気がして、私にとってのデザインは自己表現の手段でした。しかし、私は高校生になると芸術系の大学に行く決断をしませんでした。それは、将来の進路を考えたとともに、自分の趣味を職業につなげるイ



子どものころから絵を描くことが好き

### 学生団体の活動を通して

メッセージができず、趣味で終わらせるべきだと決めつけていたからです。

大学では、趣味として続けてきたデザインについてより深く知りたいという気持ちから、1年次にはデザインの学生団体に所属して Adobe などのソフトウェアを用いた広告デザインや、WEBデザインについて学んでいました。そこで初めてデジタルでのデザインに触れ、「WEBデザイナー」と



WEBデザイナーをめざす筆者

いう職業に興味を持ちました。また、その活動を通して、自分のためではなく誰かほかの人のためにデザインするということを学び、デザインとはとても論理的なもので、使う人・見る人のことを第一に考えた結果として生まれるものなのだと感じました。

これと並行して受講していた1年次の「プログラミング基礎」の授業で、Webサイトやアプリケーションを構築するプログラミング言語を学ぶなかで、プログラミングなどのシステム設計にも興味を持つようになり、WEBサイトの「ビジュアル」よりも「機能」に特化した「UI/UXデザイナー」という職業を知り、WEBデザインやシステムデザインについてより深く学びたいと思うようになりました。

## 「IT×デザイン」で見えた私の将来

きたむら もえ  
北村 萌絵

国際情報学部国際情報学科2年  
私立吉祥女子高校(東京都)出身

### 「情報ネットワーク論」でのWEBサイト構築

そんななか、2年次の講義のなかでも特に楽しみにしていた講義が「情報ネットワーク論」です。WEBサイトを構築するのに必要な言語を学べるので、WEBデザイナーやUI/UXデザイナーに興味を持っている自分にとって成長できる機会になると思ったからです。「情報ネットワーク論」の授業では、HTML/CSSやJavaScriptなど、主にWEBサイトを構築するプログラミング言語を、実習や演習を通じて実際に自分で手を動かしながら学習しました。最終課題はこれから自分でWEBサイトを構築することでした。最初は、大学に入るまでプログラミングにまったく縁のなかった

自分が、3つものプログラミング言語を一気に習得することができると不安でした。しかし、その不安よりも自分一人でWEBサイトを作ることができるといって達成感や、授業を経るごとに見た目や機能がより洗練されたものになっていくワクワク感から、毎週の授業が楽しみになりました。授業で得た知識を自分のスキルとして身につけるため、繰り返し手を動かすことを重視しました。

最終課題では、WEBサイトの「ビジュアル」と「機能」のどちらにもこだわりました。自身の世界観を表現することと、WEBサイトを訪問してくれるユーザーにとっての操作性、両方の実現を追求することに、とてもやりがいを感じました。

### 趣味を職業にしたい

この授業は、プログラミングのスキルを身につけられたことに加えて、自分の将来の進路を考えるうえでとても良い機会になりました。実際にWEBサイトの「ビジュアル」のデザインと、システム側の「機能」のデザインの間でも経験してみたことで、「WEBデザイナー」や「UI/UXデザイナー」という職業のイメージをわずかながら

もつかむことができ、将来、この分野に進みたいと強く思うきっかけになりました。

この学部に進学するまで、趣味であるデザインを職業につなげる想像すらできなかった自分が、目標とする職業を見つけてスキルアップしていけるのは、将来の可能性や選択肢の幅を広げることのできるITLでの学びゆえだと感じています。授業を通じてぼんやりと見えた自分の将来像をより明確に

するため、さらに学びを深め、自分の活躍できる場所を作っていくために努

力していきたいと思っています。



初めてデザインしたWEBサイト